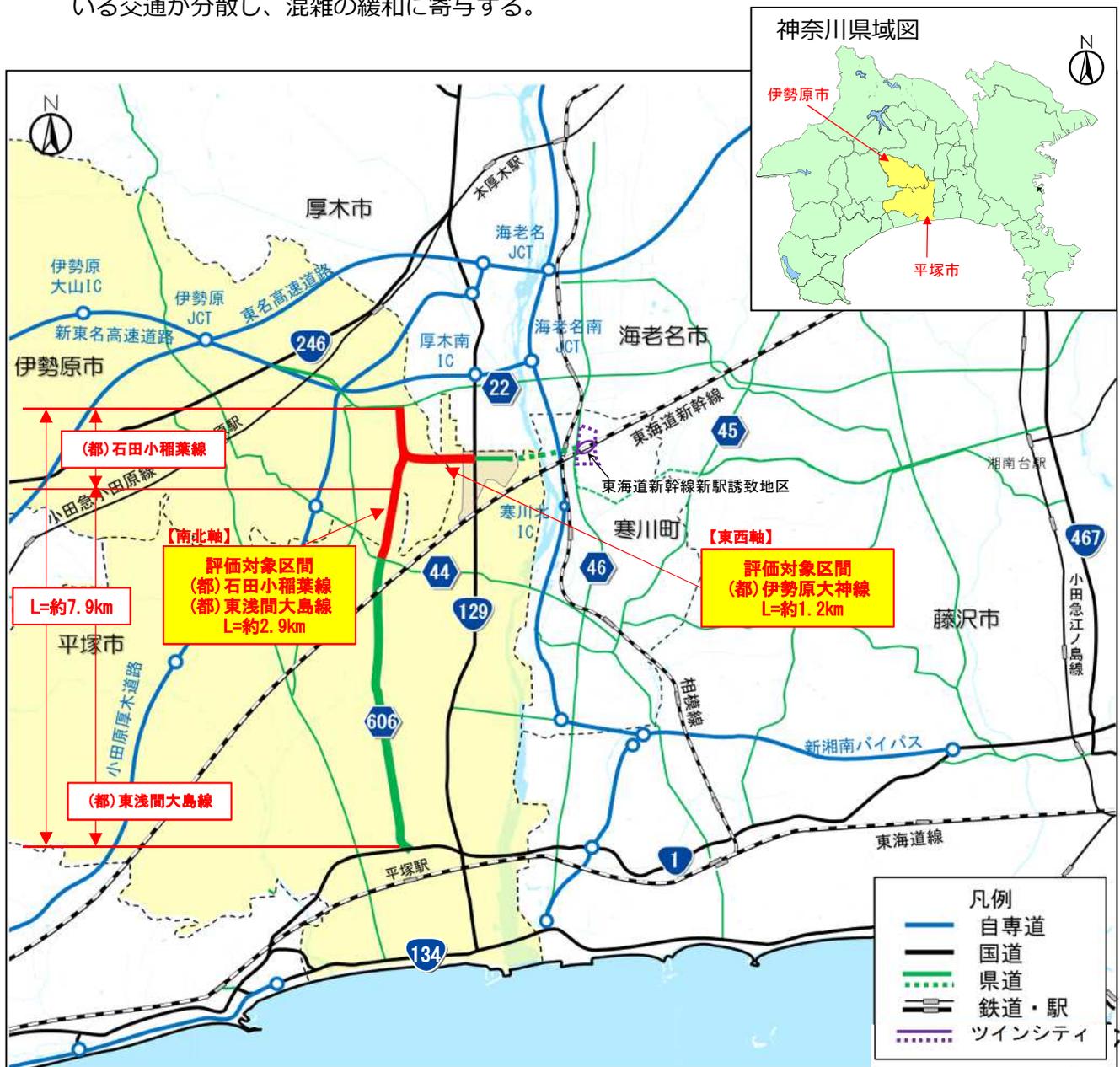


◆ 事業概要

1. 概要

1) 全体の概要

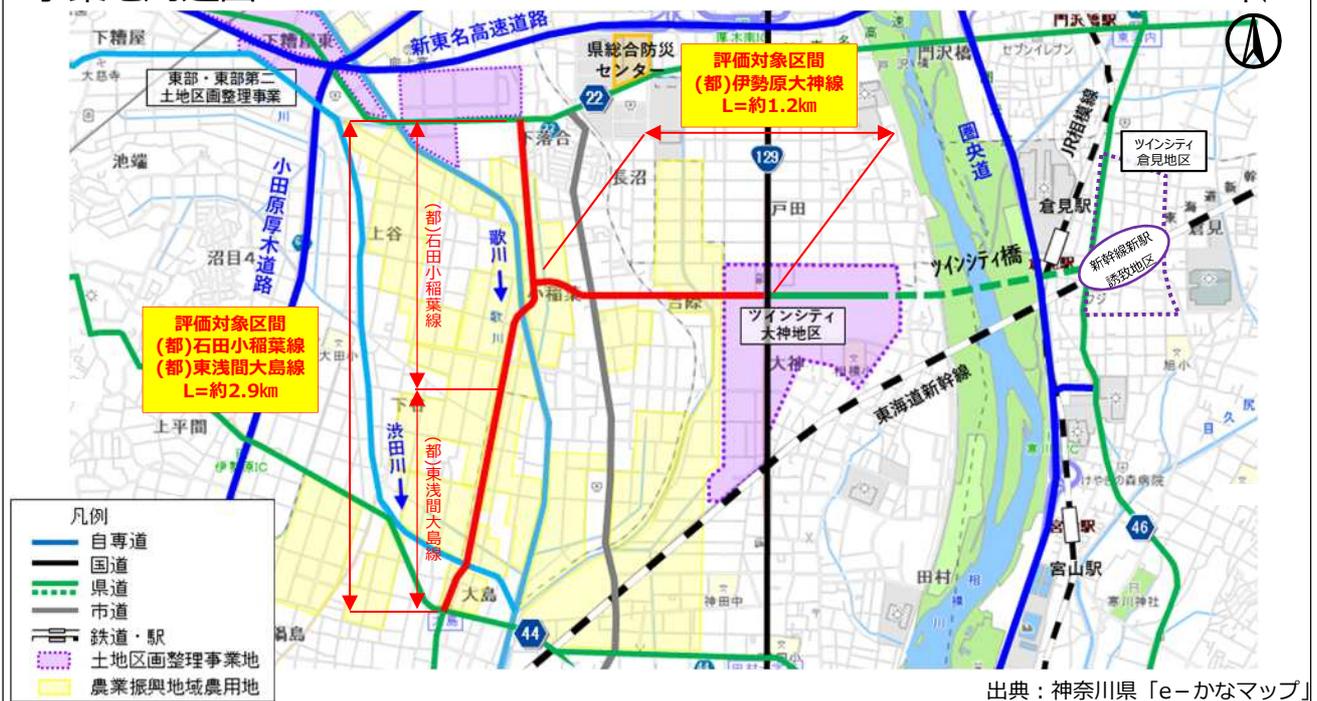
- ・ 本事業は、南北軸となる都市計画道路石田小稲葉線及び東浅間大島線と東西軸となる都市計画道路伊勢原大神線の路線で構成され、東海道新幹線新駅誘致地区を中心に、全国との交流連携の拠点となるツインシティへのアクセスを強化する路線である。
- ・ 南北軸は、国道1号から県道22号（横浜伊勢原）を結ぶ延長約7.9kmの幹線道路であり、国道129号のバイパス機能を担い、交通分散や平塚市中心市街地へのアクセス向上に寄与する。
- ・ 東西軸は、ツインシティ大神地区に隣接する国道129号から、南北軸である都市計画道路石田小稲葉線の交点までの延長約1.2kmの幹線道路であり、並行する県道22号（横浜伊勢原）の混雑している交通が分散し、混雑の緩和に寄与する。



2) 評価対象事業の概要

- ・ 評価対象区間の南北軸は、県道44号（伊勢原藤沢）から県道22号（横浜伊勢原）までの延長約2.9kmの区間及び、東西軸は、国道129号から（都）石田小稲葉線までの延長約1.2kmの区間の、延長約4.1kmの幹線道路である。
- ・ 南北軸は、事業地の大部分は農地であり、2本の河川を橋梁で渡河する。また、北側で接続する県道22号（横浜伊勢原線）沿道には、土地区画整理事業による商業・物流施設や、県の総合防災センターが立地している。
- ・ 東西軸は、評価対象区間より東側で（仮称）ツインシティ橋に接続し、その周辺では、ツインシティ大神地区の土地区画整理事業により、ショッピングモールや物流施設が立地している。

事業地周辺図



3) 評価対象事業の位置づけ

ア) 県の計画：

- 新かながわランドデザイン実施計画
 - ・ 「交流幹線道路網の整備」として位置づけ
- かながわ交通計画
 - ・ 「一般幹線道路網の整備」として位置づけ
- 改定・かながわのみちづくり計画
 - ・ 「交流幹線道路網の整備」として位置づけ

イ) 市の計画：

- 平塚市都市マスタープラン（第2次）
 - ・ 「市外と広くつなぐ東西、放射方向の幹線道路の整備」、「市内の地域間をつなぐ幹線道路の整備」として位置づけ
- 伊勢原市都市計画マスタープラン
 - ・ 「市内外の地域間を結ぶ放射状の道路ネットワーク」として位置づけ

ウ) その他：

- ツインシティ整備計画
 - ・ 「ツインシティへの道路ネットワークの整備」として位置づけ



2. 事業の経緯や必要性

1) 経緯

都市計画道路 石田小稲葉線（南北軸北側）

- ・ 昭和39年3月：都市計画決定
- ・ 昭和61年8月：都市計画変更（線形変更）
- ・ 令和6年度：都市計画変更予定（令和5年度 説明会実施）

都市計画道路 東浅間大島線（南北軸南側）

- ・ 昭和36年8月：都市計画決定
- ・ 平成7年3月：都市計画変更（幅員変更）
- ・ 令和6年度：都市計画変更予定（令和5年度 説明会実施）

都市計画道路 伊勢原大神線（東西軸）

- ・ 令和6年度：都市計画決定予定（令和5年度 説明会実施）

2) 必要性

- ・ 南北軸及び東西軸は、ともにツインシティへのアクセスを強化するために必要な路線である。
- ・ ツインシティのうち、平塚市大神地区では、「まちびらき」や大型商業施設がオープンしたことにより、国道129号の渋滞や混雑を避けるために市道へ迂回する車両が増えている状況であり、バイパス機能を担う南北軸の整備の必要性が増している。
- ・ （仮称）ツインシティ橋と合わせて東西軸を整備し、相模川の渡河部で混雑している県道22号（横浜伊勢原）や県道44号（伊勢原藤沢）の混雑を緩和し、湘南地域の一層の発展と活性化を図る必要がある。

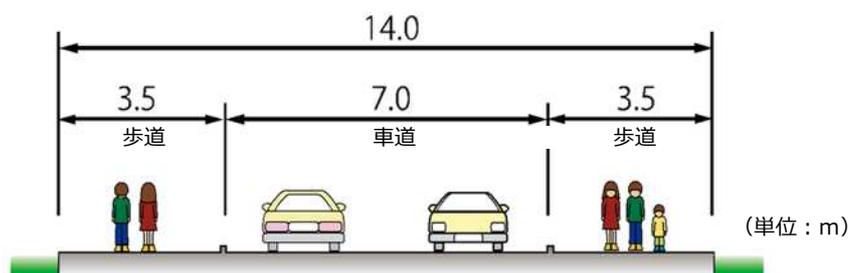
3. 事業の目的

- ・ ツインシティ両地区や東海道新幹線新駅へのアクセス強化
- ・ 湘南地域における東西方向の道路ネットワークの強化
- ・ 国道129号や県道22号（横浜伊勢原）の渋滞緩和

4. 事業の内容

- 1) 起 終 点：伊勢原市下落合～平塚市大島地内（南北軸）
伊勢原市小稲葉地内～平塚市大神地内（東西軸）
- 2) 事業延長：4.1km
- 3) 幅 員：14～17m
- 4) 交 通 量：計画交通量 9,800台/日（令和22年推計）
現況交通量 -
- 5) 道路規格：第4種第2級
- 6) 設計速度：50km/h
- 7) 車 線 数：2車線
- 8) 歩道形態：両側歩道
- 9) 主な工種：道路改良工、橋梁工

断面図





周辺状況写真

①



整備箇所周辺環境

②

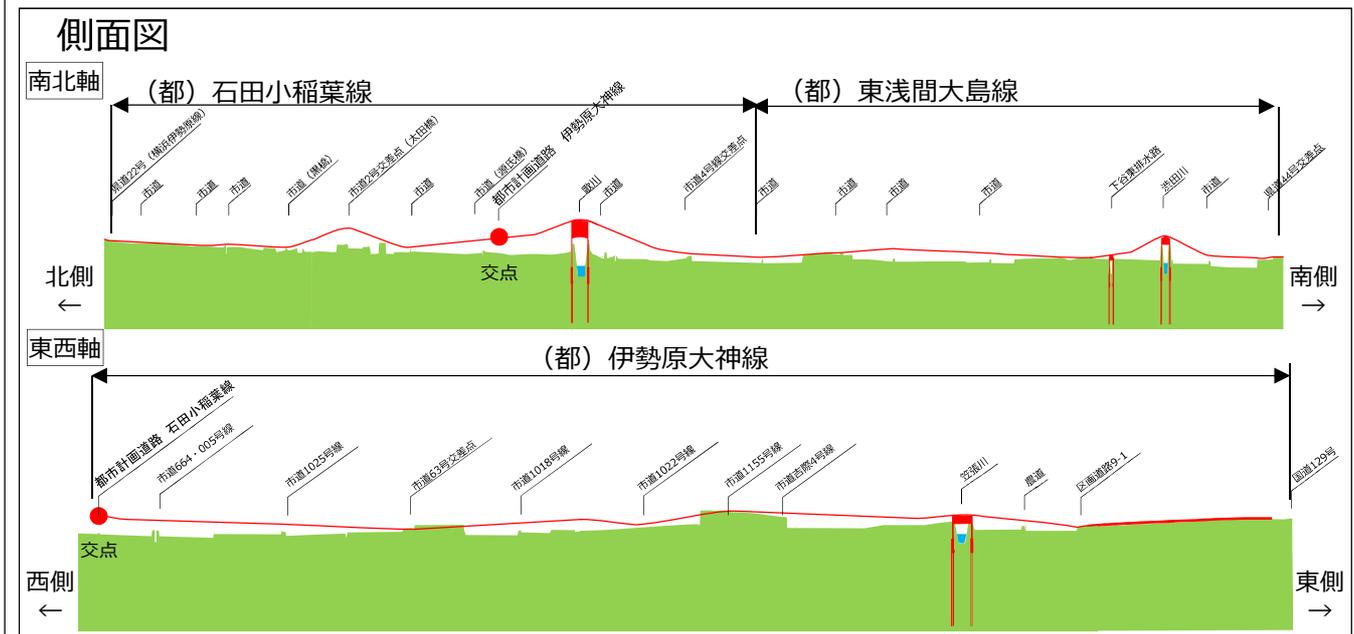


国道129号の混雑状況

③



ツインシティ大神地区のアウトレットモール



◆ 評価の視点

1. 事業の必要性に関する視点

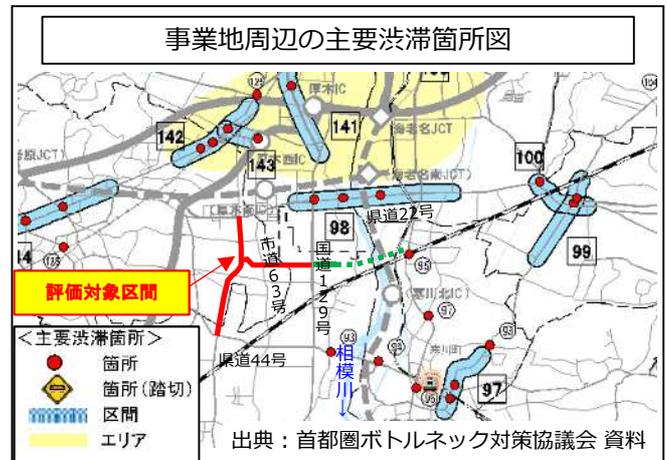
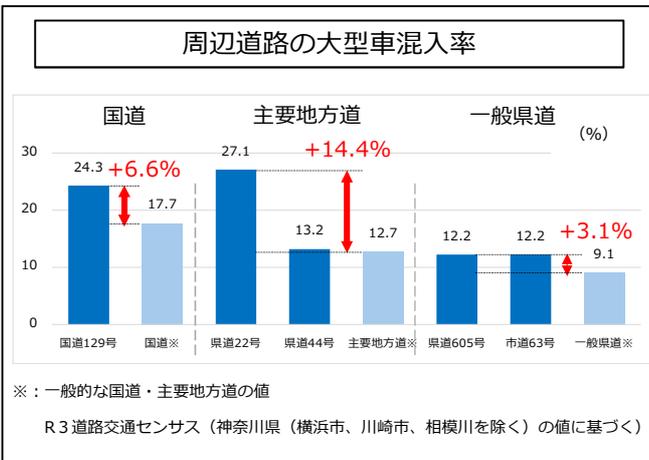
1) 事業を巡る社会経済情勢

ア) 地域の状況

- ・ 県央・湘南地域は、面積および人口において本県全体の約3割を占めており、さまざまな産業や研究機関などの集積が進んでいる。
- ・ この地域では、全国との交流・連携の窓口となる、リニア中央新幹線県内駅を核とする「北のゲート」と、誘致を目指す東海道新幹線新駅を核とする「南のゲート」の形成に取り組んでいる。
- ・ 評価対象区間の周辺地域では、平塚市のツインシティ大神地区をはじめ、伊勢原市の東部第二地区の土地区画整理事業や伊勢原駅北口開発が進むなど、近年、多くの物流施設が立地している。

イ) 事業地周辺の状況

- ・ ツインシティ大神地区では、大型商業施設や物流施設などが多数立地するなど、まちづくりが概成したため、令和5年1月にまちびらきを行った。
- ・ 現在、近傍で相模川を渡る橋梁は、いずれも交通容量が不足し、今後、ツインシティのまちづくりが進展することで、更なる渋滞悪化が懸念されることから、東西軸と接続する（仮称）ツインシティ橋を新規に事業化することとした。
- ・ また、事業地周辺では、工場や物流施設、及び倉庫などの工業系の土地利用が多いため、大型車混入率は、県内の主要地方道に比べて高い。



2) 事業の実施環境

ア) 事業に関係する計画、手続き等

【地元住民や土地所有者等への説明会】

- ・ 令和5年度 事業説明会
- ・ 令和5年度 都市計画説明会

【都市計画決定（変更）に伴う関係機関との協議】

- ・ 令和5年度 交通管理者、河川管理者、農政部局 計画協議（事前協議）完了

【道路法における手続き】

- ・ 令和5年度 県道として路線認定

南北軸：県道606号（明石下落合）、東西軸：県道410号（湘南台大神伊勢原）

イ) 地元の意向

【地元市長等で構成される整備促進協議会】

- ・ 湘南・県央地域における新たな道路ネットワークとして、早期整備の要望がある。

【伊勢原市】

- ・ 国道129号や東西方向の市道の交通渋滞緩和のために、早期整備の要望がある。

【平塚市】

- ・ ツインシティ大神地区のまちづくりの進捗に伴い、周辺市道の交通状況の悪化が懸念されることから、早期整備の要望がある。

ウ) 技術面での配慮

- ・ 評価対象区間は、大半が農地（田）であり、地盤が軟弱である。今後の地質調査結果を踏まえ、農地への影響も考慮しながら、最適な軟弱地盤対策工法を選定する。

エ) 自然環境への配慮

- ・ 評価対象区間は、農業振興地域の整備に関する法律により、農業振興地域農用地と定められており、道路整備による影響範囲を極力抑えるため、交通管理者と協議し、自転車通行帯と歩道を分離せずに、一体となった自転車歩行者道とし、必要な道路機能を有する最小限の幅員とした。また、農業用水路と平行する道路線形とし、不整形な農地分断を避ける計画とした。

オ) 景観

- ・ 評価対象区間は、富士山や丹沢山系が背後に見える田園風景となっており、道路整備にあたり、転落防止柵などの道路付属物施設の配色は、地元市の景観法所管部局と協議しながら風景に馴染むように努める。

周辺市道における交通状況



南北軸と並行する伊勢原市道63号線における交通状況

事業地周辺の田園風景



南北軸・東西軸の交差点付近の状況

3) 事業の投資効果

■費用対効果

社会的割引率		4%の場合		1%の場合	
B/C		2.0		3.8	
費用	事業費	58億円	53億円	80億円	67億円
	維持修繕費		4.8億円		13億円
便益	走行時間短縮便益	118億円	100億円	300億円	254億円
	走行経費減少便益		18億円		46億円
	交通事故減少便益		0.073億円		0.18億円

経済的内部収益率 (EIRR) 8.1%

■総合的な効果

ア) 防災

- ・ 評価対象区間は、周辺に二級河川歌川、二級河川渋田川、笠張川（農業用水路）が位置することから大部分が浸水想定区域となっているが、本事業では、周辺地盤より平均1.1mの高上げをした道路を整備する予定であり、周辺の農道よりも高くなり、浸水時の避難路としての機能が期待される。
- ・ 本路線は、大規模災害時に重要な緊急輸送道路となる国道129号と小田原厚木道路を結ぶ、県道22号（横浜伊勢原線）や県道44号（伊勢原藤沢線）を補完する路線として、防災機能を高める。

イ) 行政コストの削減

- ・ 本路線の整備に合わせて、道路内に伊勢原市が新規で雨水排水の幹線整備を検討している。

ウ) 安全・安心・利便性

- ・ 評価対象区間の整備により、交通量の多い国道129号のバイパス機能を担い、国道129号の渋滞緩和が期待できる。
- ・ 国道129号の渋滞や混雑を避けるために生活道路に迂回している車両が減少し、生活道路の交通の安全が確保できる。
- ・ 神奈川県総合防災センターや、第三次救急医療施設及び第二次救急医療施設といった、防災・医療の拠点への速達性の向上が期待される。

エ) 地域の活性化

- ・ （仮称）ツインシティ橋の整備とあわせた本路線の整備により、ツインシティのまちづくりが大きく進展するだけでなく、全国との交流・連携の窓口の都市基盤整備が進むことで、湘南地域全体の活性化が期待される。
- ・ 物流拠点の開業が本格化している平塚市北部地域と伊勢原市域のアクセスが強化され、物流の効率化や地域間交流などにより地域の活性化が図られる。

オ) 景観

- ・ 本路線からは、富士山や丹沢山系が背後に見える田園風景が眺望でき、新たな視点場の創出が期待される。

周辺市道（市道63号線）の交通量減少



2. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

1) コスト縮減

- 南北軸は、ルートを選定するにあたり、高額な用地補償費用を要する大型倉庫、住宅地、高圧電力の鉄塔を回避した。
- 南北軸、東西軸ともに、大量の盛土が必要となるが、他現場で発生する建設発生土を活用するように調整を行う。



2) 代替案立案等の検討

- 南北軸は、コスト縮減を意識したルート選定となっている。
- 東西軸は、(仮称)ツインシティ橋に接続する箇所まで最短で接続するルート選定となっている。
- このことから、現計画による整備が最善である。



◆ 事業計画

1. 今後のスケジュール

- 令和7年度から調査に着手し、令和19年度の完成を目指す。

項目 \ 年度	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)	R19 (2037)
調査	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
用地補償			■	■	■	■	■	■	■	■			
工事					■	■	■	■	■	■	■	■	■

2. 事業見込み額及び内訳

- 総事業費 77億円
 - 事業費内訳
 - 測量設計費：5億円
 - 用地補償費：30億円
 - 工事費：42億円

◆ 対応方針 (案)

本事業は、湘南地域において、南北軸及び東西軸を形成し道路ネットワークが強化されるとともに、新たな街づくりが進むツインシティへのアクセス強化が図られるなど、事業の必要性・効果は高いと判断できるため、新規事業として着手することは適当である。